

飼料用米「月の光」安定栽培法の確立

要約

飼料用米「月の光」について、穂肥をする分施肥体系の試験区と全量基肥の対照区で収量を比較した結果、試験区が 53 kg/10a 多収となった。また、栽植密度 70 株/坪と 60 株/坪の収量は同程度であった。経営収支は、全量基肥と分施肥体系の比較で分施肥体系が 2,077 円/10a (H28)、栽植密度の比較で 60 株/坪が 974 円/10a (H29) の所得増となった。栽培法は、分施肥体系の 60 株/坪植が多収低コスト栽培であった。

○ 展示のねらい

飼料用米の多収技術を実証し、所得比較による経営改善効果を検討する。

試験年度	区分	基肥肥料名	基肥の窒素施用量 (kg/10a)	穂肥 (NK202) の窒素施用量 (kg/10a)	窒素施用量の合計 (kg/10a)	栽植密度 (株/坪)
H28	試験区	オール14 (14-14-14)	8.4	4(出穂前19日)	12.4	70
	対照区	飼料米専用211 (20(8)-10-10)	10	—	10	70
H29	試験区	オール14	7	4(出穂前20日)	11	60
	対照区	オール14	7	4(出穂前20日)	11	70

※飼料米専用211：窒素速緩比12:8。緩効成分8%内訳は、セラコートニア90日タイプ4%+シグモイト110日タイプ4%

○ 主な成果

・H28 は、追肥を行うことで 53 kg/10a 多収となり 2,077 円/10a の所得増となった。H29 は、栽植密度を 60 株/坪に減らしたが収量は同程度となり 974 円/10a の所得増となった。

収量および収量構成要素調査

試験年度	区分	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	穂数 (本/㎡)	1穂粒数	籾数 (百粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	水稻作況
H28	試験区	793	739	54	418	102.3	428	83.1	20.7	103
	対照区	740	713	26	364	98.7	359	90.7	21.0	
H29	試験区	693	657	37	373	99.3	371	85.2	21.7	93
	対照区	692	654	39	391	93.8	364	85.6	21.9	

※精玄米重は粒厚1.85mm以上、くず米重は粒厚1.85mm未満(水分15%換算)

基準単収 H28:552kg/10a H29:500kg/10a

経営収支

(円/10a)

項目		H28		H29	
		試験区(追肥区)	対照区(全量基肥区)	試験区(60株区)	対照区(70株区)
粗収益	生産物	13,481 (+901)	12,580	12,474 (+18)	12,456
	交付金	122,000	122,000	122,000	122,000
	計	135,481 (+901)	134,580	134,474 (+18)	134,456
経費	肥料費	7,030 (-1,637)	8,667	6,305	6,305
	光熱動力費	2,913 (+28)	2,885	3,151	3,151
	種苗費	4,122	4,122	3,395 (-377)	3,772
	農業費	6,950	6,950	6,618 (-332)	6,950
	支払労賃	1,340 (+432)	908	1,213 (-247)	1,460
	その他	32,576	32,576	29,489	29,489
	計	54,931 (-1,176)	56,107	50,172 (-956)	51,128
所得		80,550 (+2,077)	78,473	84,302 (+974)	83,328

※ ()内は対照区との差

○ 今後の方向性

追肥は収量が増えるため、指導資料、講習会、現地検討会等で指導する。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：矢板市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315